

地域教材の意義

- ・生徒にとって身近な事実であり、共感や感動が生まれやすく、地域の良さやすばらしさを感じることができる。
- ・教師に教材分析する力がつき、道徳科の授業改善につながる。
- ・教師がフィールドワーク等を通して、体験を伴う教材解釈ができ、教材に対する熱意が高まることで生徒の心に響きやすく、道徳的価値について考えを深めることができる。

4 研究の実際

(1) 三和中学校

三和中学校では、地域を愛する生徒の育成を目指し、道徳科で郷土愛・地域愛について考えさせている。地域に戻った生徒が地域の一員として地域行事に参加することを通して、道徳科で学んだことを補充・深化・統合する場とし、郷土について深く考えることができるように取り組んでいる。

地域との関連を深める取組は次の通りである。

- 地域の伝統芸能についての学習（2年生）
- 地域の運動会への参加（4地域に分かれて全員参加）
- 「さんわふるさとフェア」への参加
- 地域の駅伝大会への参加

これらの地域行事への参加は、地域と密に関わる機会を増やし、地域を大切に思う心の育成につながっていると感じている。

地域教材の実践

（郷土を思う「昭和10（1935）年、夏の大水害」 道徳参観日 1学年



夏の大水害「この地域に住むわたしが曾祖父から聞いた大水害の被害や状況・また自らの手で協力して行った復旧作業の様態などの話から、先人の町に対する思いや苦勞、またその歴史や人々の努力についても考えさせる。」

【生徒のワークシート】

- ・助け合って復旧できた素敵な町だということがわかった。感謝して暮らしていきたいです。
- ・私たちは、今の地域の人や、昔の地域の人に支えられながら生きているのだと感じた。
- ・先人達が守ってくれたこの町を、今度は僕たちが後世に語り継いでいきたいです。
- ・何気なく暮らしていた場所にも歴史があり、もっと知りたいと思いました。

【保護者のアンケート（地域の一員としての地域活動に対する思い）】

- 良かった点 ●課題点
- 地域行事に参加することでコミュニケーションがとれ、いざという時に協力できる。
- 見守りなどは防犯につながってよい。
- 一人暮らしの方への配慮が必要である。
- 日頃から話し合い、連携していく必要がある。

(2) 神石高原中学校

神石高原中学校では、これまでに町内で作成した地域教材を活用した授業を行っている。校内で道徳担当者会を開いて、地域教材の意義や授業のねらい、生徒アンケートにおける生徒の実態等について共通認識を持った。地域からの新しい情報を取り入れながら教材を刷新し、今の生徒の知識や経験を考慮しながら教材研究を行った。授業では、各学年の実態に応じてティームティーチングを行っている。

また、道徳科と各教科・学校行事等との関連を次のように整理し、系統的な学びになり、より効果が上がるよう意図的にカリキュラムを編成している。

道徳科と各教科・学校行事等との関連

	1年生	2年生	3年生
1学期	道徳科 (C 郷土を愛する態度) 「篠崎街道」 「ぼくの町の花」(自作教材)	道徳科 (C 郷土を愛する態度) 「和樹の夏祭り」 「桑木の水路」(自作教材)	道徳科 (C 郷土を愛する態度) 「稲むらの火」 「夏の大水害」(自作教材)
1～2学期	総合的な学習の時間 「地域の現状から町を知ろう」 (福祉・森林について学ぶ)	総合的な学習の時間 「職場体験から自分のできることを考えよう」(地域の産業を知る)	総合的な学習の時間 「町の豊かな未来に向けて、自分の考えを町全体に伝えよう」(地域に提言する)
	道徳科 (C 社会参画) 「あったほうがいい?」	道徳科 (C 社会参画) 「行動する建築家 坂 茂」	道徳科 (C 社会参画) 「No Charity, but a Chance!」
	学校行事等 文化祭発表・ヒゴタイの苗植え	学校行事等 文化祭発表・地域の祭りに参加	学校行事等 文化祭発表・次世代議会・老人施設の避難訓練参加
2～3学期	道徳科 (C 社会参画) 「富士山から変えていく」	道徳科 (C 社会参画) 「門掃き」	道徳科 (C 社会参画) 「自分・相手・周りの人」



ふるさと巡り遠足・帝釈峡



ヒゴタイの苗植え



老人施設の避難訓練参加



地域の祭りへの参加

地域教材の実践

(桑木の水路 ～命の水物語～) 道徳科 2学年



水路の完成をめざして、困難にも負けずに力を合わせて大きな岩をくだいている農民たちの気持ちを考えることを通して、地域のために汗水流して働いた先人の努力を知り、地域を愛し、貢献しようとする心情を養う。

導入 …「桑木」とは、どこでしょう。

発問①…「水路を造ろう」という嘉兵衛さんに対して、農民達はどう思ったでしょう。

発問②…水路を造るのは無理だと思っていた農民達が、岩を砕いてまで水路を造りあげたのは、どんな思いからでしょう。(中心発問)

発問③…砕かれた岩の間を流れる水をじっと見つめ、多田さんは何を思ったでしょう。

発問④…自分たちが大事にしたいものは何ですか。

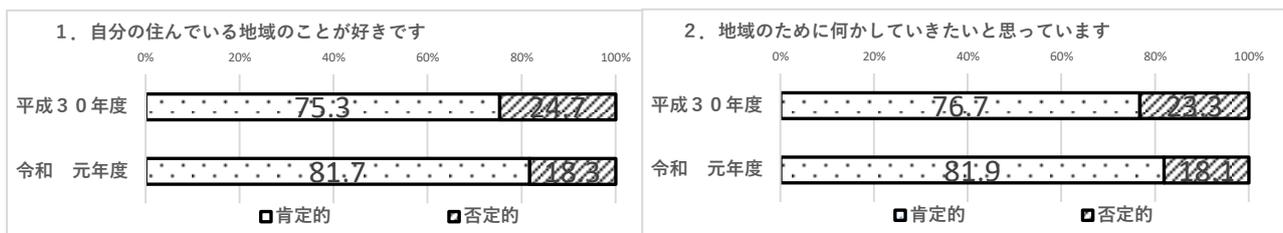
【生徒のワークシート】

- ・人が少ない地域だからこそ人と人のつながりを大切にしたい。
- ・先代の人たちがやったことをここで止めてはいけない。この水がいつまでも流れ続けてほしい。
- ・昔があるから今がある。だから伝統を残していきたい。
- ・昔の人の努力、自然環境、地域の人の優しさを大切にしていきたい。
- ・今あるものを守る。そして、どうすればより良い地域に考えたい。

5 成果と課題

(1) 成果

下の1・2のアンケートの結果(神石高原中)では、肯定的評価の割合の増加が見られた。1学期中に教科書の郷土愛の教材や、神石高原町の地域教材について集中して取り組んだ結果であると考えられる。地域を思いながら今後の学校や地域での行事に参加することが期待される。



次に、昨年度2月に実施したアンケート3・4の結果(平成30年度 神石高原中)から、学年が上がるにつれて、郷土に対する思いが醸成されていくことがわかる。地域の祭りやボランティアなどに自主的に参加する生徒も増えてきている。3年間を通して地域と関わって学習する機会を積み重ねてきた結果であると捉えている。



アンケートの結果や生徒の活動の様子から、「ふるさとを愛する生徒の育成」に向けて取組の成果が表れていると思われる。道徳科における地域教材の活用や道徳科と他教科・学校行事等の関連を図ったこと、地域と関わる体験学習への参加によって生徒の道徳性が育まれた結果と捉えている。

【地域教材の良さ】

- ・生徒のワークシートから、自分の身近な生き方の問題として受け止め、郷土への思いを高めることができた。
- ・フィールドワークの映像や写真を身近な資料として活用することで、興味関心が高まった。
- ・挿絵の登場人物に吹き出しを作り、セリフを考えさせることで、多面的・多角的に考えることができた。
- ・水路を完成させた気持ちを考えさせることにより、地域を守りたいという当時の人々の思いに触れることができた。
- ・「人が少ない地域だからこそ人と人のつながりを大切にしたい」等の生徒の記述から、自分事とし地域のことを考えることができたのではないかと受け止められた。
- ・道徳授業参観後、地域の方から「地域の先人や災害などの歴史を知り、道徳の授業で子や孫たちがそれに触れることのできる素晴らしい教材」との感想や感謝の言葉をいただいたことが、これからの授業改善への励みとなった。
- ・町の道徳推進協議会でのフィールドワークなどを通して、教師が実際に体験し思いを語れる道徳科の授業を実践できるようになってきている。

(2) 課題と今後に向けて

神石高原町には学校教育に対して協力的な風土があり、子供は地域の宝として大切に育てられている。過疎化が進み、学校の統廃合により、身近にあった子供の声や姿が地域から失われており、地域と生徒をつなぐことも学校が果たすべき重要な役割と考える。

今後は人材バンクの改訂と学校間での共有など、より一層地域の方々と連携し、地域教材を生かした道徳教育に取り組んでいきたい。

また、道徳科における「主体的な学び」を目指すためにも、教材と生活を結びつける中で課題意識を持ち、自己を見つめながら他者と議論し、生き方を深められるようカリキュラムを工夫していきたい。